

県病医療ニュース

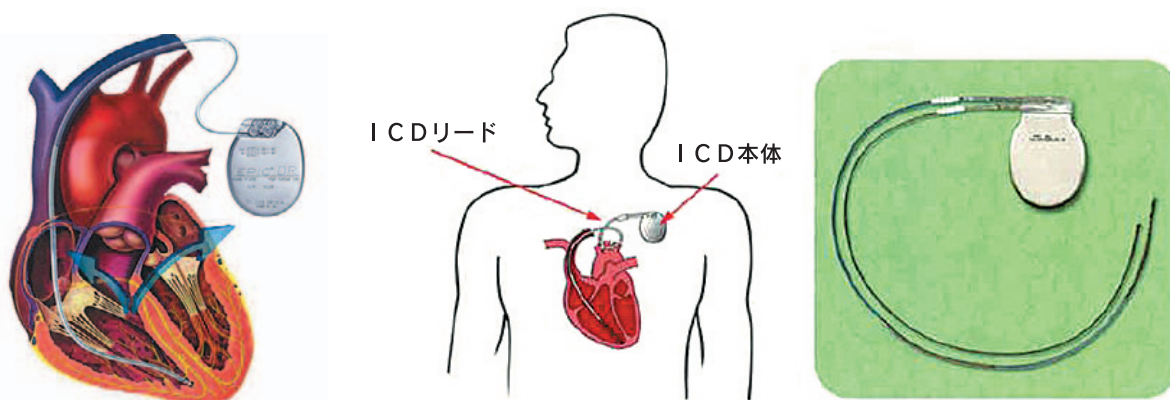
〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL 097-546-7111 (代表) 2710 (内線：県病ニュース係)
 ※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページか、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

循環器内科

不整脈、心不全治療に対する 植え込み型除細動器

心臓突然死は心臓疾患の主要な死因であり、その発生を未然に防ぐことは生命予後の改善に極めて有効です。致死的不整脈（心室細動、心室頻拍など）に対し、薬物療法やカテーテルアブレーションといった加療で十分コントロールが出来ない患者さんや、重篤な不整脈を合併し、心機能が著しく低下した心不全患者さんに対し、植え込み型除細動器療法（ICD）を施行することにより、生命予後の改善効果が認められています。

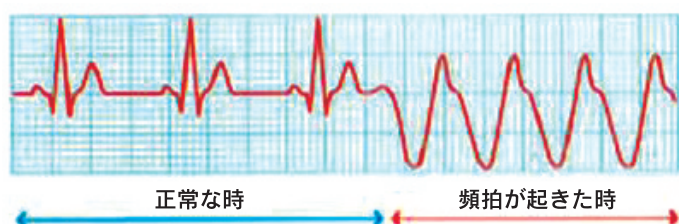
当院では平成25年7月より、植え込み型除細動器療法の施行が認められ、治療を開始いたしました。ペースメーカーと同様に、電極と言われる導線を体表から心臓内に挿入し、主に前胸部に機械を植え込みます。近年は機械や電極の小型化、性能の向上のため、局所麻酔で手術を終えることがほとんどであり、患者さんの病状に応じて、電極の種類や数を設定します。



様々な機能で不整脈の停止、抑制や心機能の評価、ペースメーカー治療を行うことで心臓の力を助けながら、突然生じる致死的不整脈に対し早期の停止を行うことで、患者さんの寿命を延ばすことを目標とした加療です。

今後、不整脈や心不全の非薬物療法の一つとして、大分大学病院と連携しながら積極的な導入を目指しています。

(循環器内科 副部長 河野 俊一)



腎臓・膠原病内科

発展する 関節リウマチの治療

関節リウマチはかつて非常に治療が困難な病気で多くの患者さんがほぼ一生続く関節の痛みで悩まされていました。

ところが、1990年代に入ってからこれまでの20年間で、多くの新しい抗リウマチ薬やさまざまな治療法が開発され、症状のコントロールができるようになってきました。特に1999年にリウマトレックス (MTX) が関節リウマチに使えるようになり、2003年からいわゆる生物学的製剤の国内発売が順次開始されたことで、関節リウマチの薬物治療は急速に発展しています。

現在ではレミケード、エンブレル、アクテムラ、ヒュミラ、オレンシア、シンポニー、シムジアの7種類の生物学的製剤 (全て注射剤) が使用可能です。生物学的製剤は体の中で炎症を起こすTNF α やIL-6といったサイトカインと呼ばれる物質の働きを抑える薬で非常に効果が高く、これにより今までは望めなかったリウマチの治癒 (完全に治る) という可能性さえ、ささやかれるようになってきました。

さらには飲み薬で今までの生物学的製剤と同様の効果があるゼルヤンツという薬も開発され副作用を検証しながら使用が開始されています。 (腎臓・膠原病内科 部長 柴富 和貴)

生物学的製剤の種類

薬品名	作用機序	投与頻度	投与方法	MTX併用
レミケード	TNF α の阻害	8週に1回	2時間で点滴	必須
エンブレル	TNF α の阻害	週1回	皮下注射	できれば併用
ヒュミラ	TNF α の阻害	2週に1回	皮下注射	できれば併用
シンポニー	TNF α の阻害	4週に1回	皮下注射	できれば併用
シムジア	TNF α の阻害	2週に1回	皮下注射	できれば併用
アクテムラ	IL-6の阻害	4週に1回	1時間で点滴	原則不要
アクテムラ皮下注	IL-6の阻害	2週に1回	皮下注射	原則不要
オレンシア	T細胞活性化の阻害	4週に1回	30分で点滴	原則不要
オレンシア皮下注	T細胞活性化の阻害	週1回	皮下注射	原則不要

関節の腫れがほぼなくなって症状がよくなる人の割合

